

## 雨よけ夏秋ピーマンの隔離床点滴かん水施肥栽培における収量特性

### 【概要】

- 1 本県の雨よけ夏秋ピーマンにおいて、隔離床点滴かん水施肥栽培は条件の良い土耕栽培と概ね同等の商品果収量を得ることができます。収量特性として、初期収量が高くなる一方で、主枝摘芯後の後期収量が低くなる傾向が見られます（図1、2）。
- 2 隔離床点滴かん水施肥栽培では、ほ場の不利な土壌条件（排水不良や土壌病害など）の影響を受けずに栽培できるため、対策技術の選択肢として検討して下さい。

### 【試験データ等】



図1 土耕栽培での湿害による生育不良（左）と隔離床点滴かん水施肥栽培の様子（右）

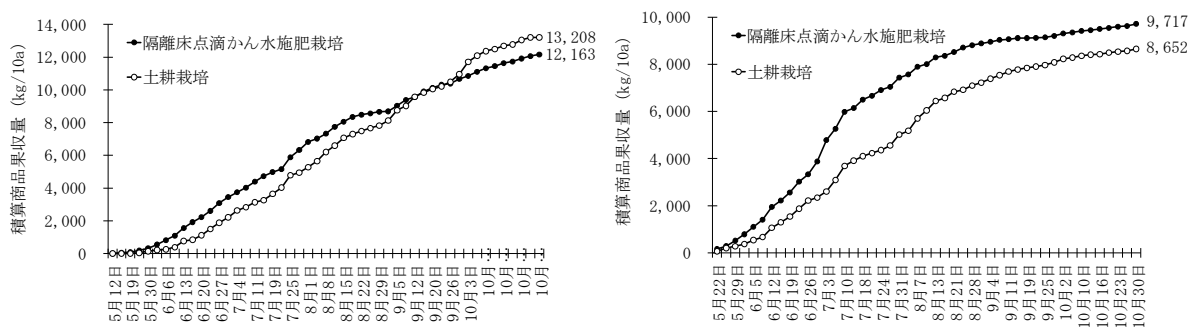


図2 雨よけ夏秋ピーマンの土耕と隔離床点滴かん水施肥栽培での積算商品果収量（左 R4年, 右 R5年）

【耕種概要】（定植）R4. 4. 12、R5. 4. 11（品種）京鈴（栽植密度）1,333株/10a（整枝管理）主枝4本仕立て、側枝2～4節摘心、収穫後の側枝は1節残して切り戻した。また、主枝はいずれも地面から約180cmの高さで摘心した。（肥培管理）土耕栽培は全量元肥で施用し、点滴かん水チューブを用いて真水をかん水した。隔離床点滴かん水施肥栽培は、栽培槽（商品名：ゆめ果菜恵）にういずOne専用培土を充填し、OATハウスS1号と2号でSA処方の標準培養液を作成し、EC1.0～1.5dS/mとなるようにかん水した。（かん水管理）日射比例かん水とし、積算日射量1MJ/m<sup>2</sup>毎に約20～200mL/株とした。

【令和5年度成果】雨よけ夏秋ピーマンの隔離床点滴かん水施肥栽培における収量特性（R5-指-24）